

キャリア教育・進路指導

1 研究主題

自他のよさを認め、ふるさととのつながりを大切にしながら、
主体的に未来を切り拓くことができる生徒の育成

2 主題設定の理由

昨年度は、総合的な学習の時間を柱に、体験学習の事前・事後学習を充実させてきた。今年度は総合的な学習の時間をはじめとする各教科等における学びと様々な体験活動を基にして、自分のよさや自分の生まれ育った地域のよさを実感し、これからの生き方を主体的に考え、行動する生徒を育てたいと考え、本主題を設定した。

3 重点目標

- (1) 教科等の学習指導を通して、目標と活動の関連付けを知的・体験的に理解できるように支援する。
- (2) 生徒のキャリア発達を促すために、教員のキャリアカウンセリング能力を向上させ、学習課題に取り組む過程を適切に支援する。

4 具体的施策

- (1) 達成させたい生徒の姿（学習内容及び資質・能力）を明確にした学習課題を設定する。
- (2) 目的及び手立てを明確にした協働的な学習活動を推進する。
- (3) 生徒が自ら問題を解決していく力を育てる学習過程（問題把握→問題解決→自己評価→課題設定）を工夫する。
- (4) 生徒の内面の変容及び資質・能力の育成を促すため、教員のキャリアカウンセリング能力の向上を図る。
- (5) 生活ノートやキャリアポートフォリオを活用し、計画性の育成や、目標設定と振り返りの機会の充実による、自己理解の深化を図る取組を推進する。
- (6) 各学年について、次の事項を重点目標として設定し、実践する。
 - ① 第1学年
 - ・自己と他者の違いに気付き、尊重しようとする態度を育てるとともに集団の中での自分の役割を理解できるようにする。
 - ・自分の将来や働くことへの興味・関心を高め、主体的に情報を収集しようとする態度を育てる。
 - ② 第2学年
 - ・自分の言動が他者に及ぼす影響を考えようとする態度を育てる。
 - ・自己理解を深め、具体的に自分の進路計画を検討できるよう支援する。
 - ③ 第3学年
 - ・自己と他者の個性を尊重し、人間関係を円滑に進めることができるよう支援する。
 - ・将来設計を達成するため、より具体的な進路について考え、判断し、困難に立ち向かおうとする態度を育てる。

平成30年度 キャリア教育全体計画

進路指導の定義
 生徒の個人資料、進路情報、啓発的経験及び相談を通して、生徒自ら将来の進路選択・計画をし、就職または進学して、さらにその後の生活によりよく適応、進歩する能力を伸長するように、教師が組織的・継続的に指導・援助する過程である。
 <中学校・高等学校進路指導の手引>

進路指導のねらい
 生徒が学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要として各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。その中で、生徒が自らの生き方を考え主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、組織的かつ計画的な進路指導を行うこと。<第1章総則第4の1(3)>

学習指導要領におけるキャリア教育に関連する主な記述（抜粋）

<総則>
 ○道徳教育を進めるに当たっては、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心をもち、伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図るとともに、平和で民主的な国家及び社会の形成者として、公共の精神を尊び、社会及び国家の発展に努め、他国を尊重し、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献し未来を拓く主体性のある日本人の育成に資することとなるよう特に留意すること。<第1の2(2)>
 ○学習や生活の基盤として、…中略…また、主に集団の場面で必要な指導や援助を行うガイダンスと、個々の生徒が多様な実態を踏まえ、一人一人が抱える課題に個別に対応した指導を行うカウンセリングの双方により、生徒の発達を支援すること。<第4の1(1)>

○生徒が、自己の存在感を実感しながら、よりよい人間関係を形成し、有意義で充実した学校生活を送る中で、現在及び将来における自己実現を図っていくことができるよう、生徒理解を深め、学習指導と関連付けながら、生徒指導の充実を図ること。<第4の1(2)>

○生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要として各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。その中で、生徒が自らの生き方を考え主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、組織的かつ計画的な進路指導を行うこと。<第4の1(3)>
 ○学校や学級内の人間関係や環境を整えるとともに、職場体験活動やボランティア活動、自然体験活動、地域の行事への参加などの豊かな体験を充実すること。<第6の3>

<道徳>
 ○道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。<第1目標>

<総合的な学習の時間>
 ○探求的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。<第1目標>
 ○目標を実現するにふさわしい探求課題については、学校の実態に応じて、例えば、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題、地域や学校の特徴に応じた課題、生徒の興味・関心に基づく課題、職業や自己の将来に関する課題などを踏まえて設定すること。<第2の3(5)>
 ○職業や自己の将来に関する学習を行う際には、探究的な学習に取り組むことを通して、自己を理解し、将来の生き方を考えるなどの学習活動が行われるようにすること。<第3の2(8)>

<特別活動>
 ○自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。<第1目標(3)>
 ○ア社会生活、職業生活との接続を踏まえた主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用 現在及び将来の学習と自己実現とのつながりを考えたり、自主的に学習する場としての学校図書館等を活用したりしながら、学ぶことと働くことの意義を意識して学習の見直しを立て、振り返ること。
 イ社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成 社会の一員としての自覚や責任をもち、社会生活を営む上で必要なマナーやルール、働くことや社会に貢献することについて考えて行動すること。
 ウ主体的な進路の選択と将来設計 目標をもって、生き方や進路に関する適切な情報を収集・整理し、自己の個性や興味・関心と照らして考えること。<第2【学級活動】2の(3)>

○2の(3)の指導に当たっては、学校、家庭及び地域における学習や生活の見直しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行うこと。その際、生徒が活動を記録し蓄積する教材等を活用すること。<第2【学級活動】3の(2)>
 ○地域や社会の課題を見だし、具体的な対策を考え、実践し、地域や社会に参画できるようにすること。<第2【生徒会活動】2の(3)>
 ○勤労の貴さや生産の喜びを体得し、職場体験活動などの勤労観・職業観に関わる啓発的な体験が得られるようにするとともに、共に助け合って生きることの喜びを体得し、ボランティア活動などの社会奉仕の精神を養う体験が得られるようにすること。<第2【学校行事】2の(5)>

○学校生活への適応や人間関係の形成、進路の選択などについては、主に集団の場面で必要な指導や援助を行うガイダンスと、個々の生徒が多様な実態を踏まえ、一人一人が抱える課題に個別に対応した指導を行うカウンセリング（教育相談を含む。）の双方の趣旨を踏まえて指導を行うこと。特に入学当初においては、個々の生徒が学校生活に適応するとともに、希望や目標をもって生活をできるように工夫すること。あわせて、生徒の家庭との連絡を密にすること。<第3の2の(3)>

キャリア教育の定義
 一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育<中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」>

県学校教育の指針
 1 キャリア教育のねらいの共有と成果の発信
 ふるさと教育全体計画や各教科等の年間指導計画を改善するとともに、学校報やPTA等での広報活動、職場体験・インターンシップ依頼時の事業所等への説明、「秋田わか杉 七つの「はぐくみ」」の活用等を通して、キャリア教育のねらいと成果を学校と家庭や地域、企業等と共有し、連携・協働して子どもたちを育てる。
 2 学齢や発達段階を踏まえた体験活動の充実
 学齢や発達段階を踏まえ、集団宿泊活動、職場体験、インターンシップ等の体験活動を充実させることにより、学ぶことや働くこと、生きることの尊さを実感させ、社会的・職業的に自立するために必要な基盤となる資質・能力を育てる。また、地域の伝統を受け継ぐ活動や地域の産業に関わる活動、地域の課題や展望について考え発信する活動等の地域の活性化に貢献する活動を通して、広く社会に発信し行動できる人材の育成を図る。
 3 キャリア発達を一層促すための学校間・校種間連携の推進
 学校間・校種間における職場体験・インターンシップ先の共有、授業や行事での交流、学びの履歴を校種を超えて把握することなどを通して、子供たち一人一人のキャリア発達を支援する。

中央地区学校教育の重点
 社会の一員としての自立を目指すキャリア教育
 ◎子ども一人一人の社会的・職業的自立に向け、教育活動全体を通じて系統的・組織的な指導の充実を図る。
 ○地域社会の特色を生かしてキャリア教育を実施し、子どもが身に付けた資質・能力を家庭や地域と共有する。
 ○子どもがキャリアノート等を活用し、学習したことを自分の生き方とつなげる機会を各活動に位置付ける。
 (◎=今年度の重点事項 ○=重点事項の具現に向けた具体的実践事項)

潟上市学校教育の重点目標と努力事項
 ○重点目標
 自他のよさに気づき、夢と希望のある生活や将来をつくり出す力の育成 <かかわる みつめる むかう きめる すすむ>
 ○努力事項
 1 「育てたい力と子どもの姿」を明確にし、教育活動全体を通して育てるキャリア教育の推進
 2 係活動や当番活動、自然体験や社会体験、体験的な学習を通した、きめ細かな生き方指導の充実
 3 学ぶことと働くことに関わりから、生きることの尊さを実感させるための道徳教育との連携による指導の充実
 4 幼稚園・保育園、小学校、中学校の連携を軸とした校種間を貫く教育の推進

学校の教育目標 **自律 協同 学び合い**
 ～共に成長 共に前進～

目指す生徒像
 <自律> ・善悪の判断に基づいて行動する生徒
 ・辛いことにも粘り強く努力する生徒
 ・いじめを「しない」「させない」「許さない」生徒
 <協同> ・仲間を思いやることのできる生徒
 ・仲間と力を合わせて活動に励む生徒
 ・仲間と目標達成のために協力し合う生徒
 ・よく見て、確かに聴き取る生徒
 ・自らの考えをもち、はっきり伝え合う生徒
 ・学習に自ら継続して取り組み、自らを高めようとする生徒

本校のキャリア教育の重点実践事項
 1 教科等の学習指導を通して、目標と活動の関連付けを知的・体験的に理解できるように援助する。（ガイダンスの機能の充実）
 2 生徒のキャリア発達を促すために、教員のカウンセリング能力を向上させ、学習課題と取り組む過程を適切に支援する。（キャリア・カウンセリング能力の向上）

基本方針
 1 達成させたい生徒の姿（学習内容及び資質・能力）を明確にした学習課題の設定と、目的及び手立てを明確にした協働的な学習活動の推進
 2 生徒が自ら問題を解決していく力を育てる学習過程の工夫
 3 生徒の内面の変容及び資質・能力の育成を促す教員のカウンセリング能力の向上
 4 目標設定と振り返りの機会の充実による、自己理解の深化を図る取組の推進
 (1) 生活ノート
 (2) キャリアポートフォリオ

キャリア教育の目標（目指すべき生徒の姿）
 自他のよさを認め、ふるさととのつながりを大切にしながら、主体的に未来を切り拓くことができる生徒の育成

生徒の現状（定性的・定量的把握）

○自分のよさを認めるという意味での「肯定的自己理解」は、現2年生は多くの生徒が満足できる状況にあるが、現3年生は8割に満たず、今後の指導に工夫が必要である。
 ◆「自分にはよいところがあると思う」の項目に「強く思う」「そう思う」と回答（以下、肯定的回答）をした生徒(H29年度県調査結果)
 現2年生91.3%
 現3年生74.5%

○現在と将来の自分自身のために学習が大切であることに多くの生徒が気付いているが、将来の夢や目標をもっている生徒は9割に満たず、進路学習の充実が必須である。
 ◆「将来の夢や希望をもっている」の項目に肯定的回答をした生徒（H29年度県調査結果）
 現2年生85.2%
 現3年生86.3%
 ◆「普段の生活や社会に出たときに役立つよう、勉強したい」の項目に肯定的回答をした生徒（H29年度県調査結果）
 現2年生93.9%
 現3年生95.1%

○「ふるさととのつながりを大切にしたい」という意識は学年によって差が見られる。3年生の意識を高めていく指導の工夫が必要である。
 ◆「地域のためになる活動に進んで取り組みたい」の項目に肯定的回答をした生徒(H29年度県調査結果)
 現2年生90.1%
 現3年生81.4%

| キャリア発達に関わる達成すべき課題（現状と目標の差からみた生徒の課題） | | | | |
|-------------------------------------|-------------------|-------------|-------------------|------------|
| 人間関係形成・社会形成能力【かかわる】 | 自己理解・自己管理能力【みつめる】 | 課題対応能力【むかう】 | キャリアプランニング能力【きめる】 | 意欲・態度【すすむ】 |
| ●【かかわる】 | | ●【きめる】 | | |

| 各学年の重点目標 | | |
|---|--|---|
| 第1学年 | 第2学年 | 第3学年 |
| <ul style="list-style-type: none"> 自己と他者の違いに気づき、尊重しようとする態度を育てるとともに、集団の中での自分の役割を理解できるようにする。 自分の将来や働くことへの興味・関心を高め、主体的に情報を収集しようとする態度を育てる。 課題：他者と自分の違いに気付いてはいるが、自他の個性を尊重するという点では不十分である。 | <ul style="list-style-type: none"> 自分の言動が他者に及ぼす影響を考えようとする態度を育てる。 自己理解を深め、具体的に自分の進路計画を検討できるよう支援する。 課題：徐々に自分を客観的に見られるようになってくるが、自分の言動の影響や近い将来の自分像を思い描くまでには至っていない。 | <ul style="list-style-type: none"> 自己と他者の個性を尊重し、人間関係を円滑に進めることができるよう支援する。 将来設計を達成するため、困難に立ち向かおうとする態度を育てる。 課題：希望の進路に進むため、困難を乗り越える必要があることの自覚が不十分である。 |

| 教科 | 道徳 | 総合的な学習の時間 | 特別活動 | その他の教育活動 |
|---|--|--|--|--|
| 目標と活動の関連付けの知的・体験的理解（ガイダンスの機能の充実） | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 目的及び意義を明確にした協働的な学習活動の推進を通して、自己理解を深め、他者と協働・協調できる資質・能力を育てる。 自己理解、問題解決、自己評価、課題設定（PDCA）という学習過程を重視した指導を通して、自ら問題を解決し、学び続ける資質・能力を育てる。 | A 主として自分自身に関すること。【向上心、個性の伸長】 自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追究すること。 【希望と勇気、克己と強い意志】 より高い目標を設定し、その達成を目指し、希望と勇気をもち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げること。 | 【目標】 地域の人との「出会い・触れ合い・学び合い」を重視し、協働的、探究的な学習を通して、よりよく問題を解決する資質・能力を育成する。 【育てたい資質・能力】 <課題設定> <表現><計画実行><自己理解> <自己評価><協同><他者理解> | (2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 ア 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成 (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現 イ 社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成 ウ 主体的な進路の選択と将来設計 | <ul style="list-style-type: none"> 生活ノートの活用を通して、目標設定と振り返りの機会を設定し、計画性を育成するとともに、自己理解の深化を図る。 キャリアポートフォリオの活用により、生徒の自己理解の深化を支援する。 |

教科等の授業に共通する基本的な考え方